

# 幼稚園の現況について



玉 越 三 朗

このたび昭和二十五年年度、昭和二十五年四月三十日現在）の全園幼稚園に關する統計が整理されたので、その結果をお知らせする事とする。多少なりとも保育關係者の參考となれば幸いである。

園數 總園數は二、一〇〇園であるから、終戦前に最も普及した昭和十七年度の二、〇八五園（文部省年報）より一五園も上廻ることとなつて、施設數からは戦前に戻つたといふことができる。その内譯を設置者別にみると、國立三三園、公立八四一園、私立一、二二六園であつて、これを昭和十七年度に比較すると大分變つてきている。すなわち昭和十七年度には國立公立對私立の割合が大體三對七であつたのが、本年度は大體四對六となつてゐる。この結果は、市町村當局が戦前よりも幼児教育の重要性を認識しはじめたことを物語つてゐる。

地方別にみると一府縣平均四六園（國立一公立一八、私立二七）で、最も普及しているのは東京都の三〇七園（國立二、公立四三、私立二六二）兵庫縣の二一五園（國立一、公立一四八、私立六六）大阪府の一五〇園（國立二、公立六九、私立七九）徳島縣の一五園（國立一、公立一一一、私立三）等で、最も普及のおくれている府縣は高知縣の三園

（私立のみ）山形縣の七園（國立一、私立六）富山縣の八園（國立一、公立二、私立五）鳥取縣の九園（公立二、私立七）等である。

一年間の増加園數をみると三二四園で、前年度の二五七園よりもさらに六七園も増加して、増加實數の最高を示している。増加園數の内譯をみると、國立一園、公立六三園、私立二六〇園で、公立は前年（七七園増）より減少しているが、國立私立は増加しており特に私立は注目すべき増加（前年度は一八一園）を示している。

府縣別にみると、東京都の八五園 公立三私立八三 静岡縣の三六園（公立六、私立三〇）大阪府の三〇園（公立一二、私立一八）廣島縣の二五園（公立八、私立一七）埼玉縣の二三園（私立のみ）神奈川縣の二〇園（公立二、私立一八）等が増加府縣の主なものゝ逆に減少した府縣には、愛媛縣の五園（公立三、私立二）他岡山縣岐阜縣岩手縣秋田縣群馬縣等がある。

○

教員數 教員總數は九、四一一人で、本年度が最高である。その内譯を設置別にみると國立一三二人、公立三、八〇〇人、私立五、四七九人で、職名別にみると、園長（主事を含む）二、〇六七人、教諭三、八九三人助教

諭三、一〇四人、養護教諭一二二人、養護助教諭四人、講師一〇二人、その他の教員(P.T.A.等で費用を出している職員)九一人で、園長は全體の二二%、教諭は四一%、助教諭は三三%となつてゐる。なお教諭助教諭の比率は國立は九對一、公立は五對五、私立は六對四で公立が最も悪い。

増加實数は九八八名で、前年度の一、三九一名には及ばないが、助教諭の増加が前年度よりも減少していることは喜ばしい。増加の内譯をみると、國立三名減、公立二〇八名増、私立七九三名増である。そのうち助教諭についてみると、公立は前年度の三一四名に對して、本年度は九四名と極端に減少しているが、私立は三七二名に對して、四〇六名とかえつて増加しているのは今後考えなければならぬ。

○ 一園平均の教員數は、四・四八人で、助教諭助教諭のみから考えると三・三三人で、前年度の四・七一人と三・四〇人に比較して何れも少くなつてゐる。さらに一組當りの教員數(教諭助教諭のみ)についてみると、一・〇九人で前年度と變りはないが、國立(前年一・〇七人、本年一・〇三人)、公立(前年一・一〇人、本年一・〇五人)はともに前年より悪く

私立(前年一・一〇人、本年一・一五人)のみがよくなつてゐる。しかしこれを後述の一组當りの幼兒數と考へ合せると、一組當りの幼兒數が減少してきてゐるから教育上からは充實してきたといえる。いま一教員(教諭助教諭のみ)當り幼兒數を考へてみると、前年度は三七・六三人であつたのが、本年度は三二・〇五人となつて、約六人の減少を示しているから、この點からも實質的には充實してきたことがわかる。(一組の幼兒數も参照されよう)

○ 幼兒數 幼兒總數は二二四、二五一人で、前年度より四・五五六人減少している。これは國立三三人、公立五、七〇一人の減にもとづくものである。(私立はかえつて一、一七八人増加している)この國立公立の減少の原因は幼兒教育の普及上今後充分研究する必要がある。

設置別内譯をみると、國立二、九五二人、公立一〇七、三二五人、私立一一三、九七四人で、男女別は前年度と同じく男児がやゝ女児より多くなつてゐる。

一園平均幼兒數は一〇六・七八人で、前年度の一二八・五〇人より減少している。設置別にみると、國立八九・三三人、公立一二七

・六二人、私立九二・九六人で前年度の九三・二八人、一四五・二八人、一一六・四〇人より何れも減少している。

一組當りの幼兒數をみると、三五・〇三人で前年度の四一・四一人より六・三八人も減少している。これを設置別にみると、國立は三二・四四人、公立は三九・五三人、私立は二八・九二人となつて、前年度の一组平均幼兒數よりも(國立三四・七一、公立四五・五四人、私立三六・三八人)國公立ともに減少して、幼稚園經營も正常に戻りつゝあると考えられる。

○ さらに幼兒を年令別にみると、満五歳から小學校入學までの幼兒が一五九、九五二人で最も多く全體の七割強を占め、次が満四歳から満五歳まで四五、七〇八人でその二割強を占め、残りの一八、五九一人の約一割が満三歳から満四歳までである。これを前年度に比較すると満五歳以上は多少減少して、満三歳から満四歳までと満四歳から満五歳までの幼兒が増加してきてゐる。

# 幼稚園に関する資料

1、昭和二五年度（昭和二五年四月三十日）×印は外國人

計	私 立	公 立	國 立	區 分	
2,100	1,226	841	33	園 數	
9,411	5,479	3,800	132	總 計	教 員 數
×17	×17			園 長	
2,067	1,202	833	32	教 諭	
×6	×6			助 教 諭	
3,893	1,368	1,434	91	養護教諭	
3,104	1,688	1,413	3	養 護 助 教 諭	
×1	×1			講 師	
112	36	73	3	その他の教員	
42	32	10	—		
×1	×1				組 數
102	83	19	—		
91	70	18	3		
6,401	3,595	2,715	91		
×189	×66	×123		男 兒	幼 兒 教
112,927	57,265	54,156	1,506	女 兒	
×151	×55	×96		計	
111,324	56,709	53,169	1,446		
×340	×121	×219			
224,251	113,974	107,325	2,952		
3.05	2.93	3.23	2.76	1幼稚園當り組數	
106.78	92.96	127.62	89.33	1幼稚園當り幼児數	
3.33	3.31	3.39	2.8	1幼稚園當り教員（教諭、助教諭）數	
32.05	28.12	37.69	31.40	幼児數 教員（教諭、助教諭）1人當り	
35.03	28.92	39.53	32.44	1組當り幼児數	
1.09	1.15	1.05	1.03	教員數（教諭、助教諭）1組當り	

（四七頁より）

然るに師範學校が附屬幼稚園を持たないものも相當數に及び、又現在設置されているものも殆んど規模が著しく貧弱で、現在の學級數及び教員定數では到底その使命を果し得ない状態であります。

就きましては當局におかれ、上述の現状を御推察の上、國立幼稚園の整備充實につき格別の御配慮を賜わり、幼稚園教員の養成に或いは地方幼稚園教育の研究と指導に、その使命を達成出來ますよう茲に全國國立幼稚園長會の議決に基き請願する次第であります。

### 3 昭和二五年度 年令別幼児数

割合	計	私立	公立	国立		
	×12 9,277	×5 6,735	×7 2,284	258	男児	満三歳から満四歳まで
	×7 9,314	×3 6,848	×4 2,240	226	女児	
8.29%	×19 18,591	×8 13,583	×11 4,524	484	計	
	×38 23,242	×13 16,164	×25 6,575	503	男児	満四歳から満五歳まで
	×36 22,466	×14 15,738	×22 6,242	486	女児	
20.38%	×74 45,708	×27 31,902	×47 12,817	989	計	
	×139 80,408	×48 34,366	×91 45,297	745	男児	満五歳以上 小学校入学まで
	×108 79,544	×38 34,123	×70 44,687	734	女児	
71.33%	×247 159,952	×86 68,489	×161 89,984	1,479	計	
	×189 112,927	×66 57,265	×123 54,156	1,506	男児	計
	×151 111,324	×55 56,709	×96 53,169	1,446	女児	
100%	×340 224,251	×121 113,974	×219 107,325	2,952	計	

### 2 昭和二五年度 教員男女別内率

計	私立	公立	国立	区分	
1,662	915	687	30	男	總計
7,749	4,534	3,113	102	女	
9,411	5,479	3,800	132	計	
1,504	824	653	30	男	園長
560	378	180	2	女	
2,067	1,202	833	32	計	
85	61	21	—	男	教諭
3,811	2,307	1,413	91	女	
3,893	2,368	1,434	91	計	
10	9	1	—	男	助教諭
3,094	1,679	1,412	3	女	
3,094	1,688	1,413	3	計	
112	36	73	3	女	養護教諭 助教諭
42	32	10	—	女	
46	33	8	—	男	
56	45	11	—	女	講師
102	83	19	—	計	
17	13	4	—	男	その他の教員
74	57	14	3	女	
91	70	18	3	計	

4、昭和二四年度と昭和二五年度との比較（一は減）

24年度の増減	計	私立	公立	国立	区分		
257	324	260	63	1	園 數	教 員 數	
1,391	998	793	208	-3	總計		
244	299	233	63	3	園長		
435	422	354	62	6	教諭		
688	496	406	94	-4	助教諭		
34	34	7	27	0	養護教諭		
	14	17	-3	0	養護助教諭		
-12	17	24	-3	-4	講師		
	-282	-246	-32	-4	その他教員	組 數	
550	875	594	276	5	組 數		
14,489	-1,950	1,111	-3,078	17	男兒	幼 兒 數	
15,160	-2,606	67	-2,623	-50	女兒		
29,649	-4,556	1,178	-5,701	-33	計		
16.81%	15.42%	21.20%	7.49%	3.03%	幼稚園數增加率	幼稚園總數增加率	
19.81%	10.60%	14.47%	5.47%	-2.27%	教員總數增加率		
22.66%	13.41%	18.66%	5.48%	2.12%	教諭・助教諭增加率		
14.89%	-2.03%	10.33%	-5.31%	-1.12%	幼兒數增加率		

中に對して整容に氣をつけること、歸りの挨拶など快よく「さよなら」をとりかわして歸ることなど毎日の生活へのよき習慣について考へてみたのである。

朝の挨拶・廊下や保育室では出来るだけ静かに・おもちゃの後片付・お當番の責任・自分の順番をまつ・共同のおもちゃを獨占しないこと・など以上數種の幼稚園生活に必要な、又あつてほしい、よき習慣をあげてみたのであるが、これで勿論充分というわけでもないから、それぞれの幼稚園でその事情によつて、必要なぞましいよい習慣を考へて、實行されることをぞむのである。最初に子供たちのよき習慣を考へる前に、これを受ける子供たちの心もちの云うことを考へなくてはならないことを繰りかへして思う。即ち家庭からはなれて、最初の集團生活に入つた子供達はこのよき習慣がながれこめるだけの用意の出来ることである。幼稚園は楽しい場所である、先生は大すきなよい人である、お友達は何れよしである、毎日の幼稚園生活が楽しい、うれしいといふ安定感をもつていてこそ、よい習慣がのぞめるのであるよい幼稚園は、先ず子供の爲に健康を思い、次によい生活のための習慣を考へるべきではなからうか。

（一五頁より）  
占領されて黙つてゐる子供も亦よくないことである事を知せなくてはならない。

歸宅の前の用意をしましょう。

お歸の時の豫告を受けたら、遊びをやめて、後片付けが出来れば、手を洗い、用便をすませ、お辨當、外套などの持ち物の支度、よごれたエプロンのとりはすしなど、歸宅への途